

貸 借 対 照 表

(2021年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部	178,882	負 債 の 部	59,441
流 動 資 産	144,804	流 動 負 債	53,539
現 金 及 び 預 金	50,097	営 業 未 払 金	127
営 業 未 収 入 金	582	リ ー ス 債 務	45
販 売 用 不 動 産	29	未 払 金	766
未 成 業 務 支 出 金	511	未 払 費 用	2,410
前 払 費 用	549	未 払 法 人 税 等	2,792
短 期 貸 付 金	92,500	未 払 消 費 税 等	276
そ の 他	534	前 受 金	4,700
貸 倒 引 当 金	△2	預 り 金	39,740
固 定 資 産	34,078	賞 与 引 当 金	2,680
(有 形 固 定 資 産)	3,969	固 定 負 債	5,901
建 物	2,897	リ ー ス 債 務	44
構 築 物	95	退 職 給 付 引 当 金	5,662
工 具 、 器 具 及 び 備 品	299	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	30
土 地	595	受 入 敷 金 保 証 金	164
リ ー ス 資 産	82	純 資 産 の 部	119,441
(無 形 固 定 資 産)	698	株 主 資 本	119,083
ソ フ ト ウ ェ ア	554	資 本 金	2,970
ソ フ ト ウ ェ ア 仮 勘 定	27	資 本 剰 余 金	3,543
電 話 加 入 権	116	資 本 準 備 金	3,543
(投 資 そ の 他 の 資 産)	29,409	そ の 他 資 本 剰 余 金	0
投 資 有 価 証 券	2,994	利 益 剰 余 金	112,752
関 係 会 社 株 式	17,774	利 益 準 備 金	210
破 産 更 生 債 権 等	233	そ の 他 利 益 剰 余 金	112,542
長 期 前 払 費 用	73	別 途 積 立 金	49,000
繰 延 税 金 資 産	3,949	繰 越 利 益 剰 余 金	63,542
敷 金 及 び 保 証 金	4,603	自 己 株 式	△181
そ の 他	33	評 価 ・ 換 算 差 額 等	357
貸 倒 引 当 金	△251	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	357
資 産 合 計	178,882	負 債 純 資 産 合 計	178,882

損 益 計 算 書

(2020年 4 月 1 日から
2021年 3 月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
営 業 収 益		65,678
営 業 原 価		51,047
売 上 総 利 益		14,630
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		3,417
営 業 利 益		11,213
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	263	
雇 用 調 整 助 成 金	172	
そ の 他	96	532
営 業 外 費 用		
そ の 他	2	2
経 常 利 益		11,743
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	56	56
税 引 前 当 期 純 利 益		11,687
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	3,777	
法 人 税 等 調 整 額	△70	3,706
当 期 純 利 益		7,980

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

- | | |
|------------------|---|
| イ. 満期保有目的の債券 | 償却原価法（定額法） |
| ロ. 子会社株式及び関連会社株式 | 移動平均法による原価法 |
| ハ. その他有価証券 | |
| ・時価のあるもの | 事業年度末の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定） |
| ・時価のないもの | 移動平均法による原価法 |

② たな卸資産

- | | |
|------------|------------------------------|
| イ. 販売用不動産 | 個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法） |
| ロ. 未成業務支出金 | 個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法） |

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

（リース資産を除く）

建物（その付属設備は除く。）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法、その他は定率法によっております。

なお、主な耐用年数及び残存価額は、法人税法の規定と同一の方法に基づいております。

また、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

② 無形固定資産

（リース資産を除く）

ソフトウェア（自社利用分）については、社内における見込利用可能期間（5年）による定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

④ 投資その他の資産

長期前払費用については、均等償却によっております。

なお、償却期間は、法人税法の規定と同一の方法に基づいております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

営業未収入金等の回収事故に対処して、一般債権については原則として貸倒実績率により、破産更生債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

なお、数理計算上の差異は、その発生年度の翌事業年度に一括費用処理する方法によっております。

④ 役員退職慰労引当金

役員の退任に伴う退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく期末要支払額を計上しております。

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜処理によっており、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は長期前払費用に計上し、5年間で均等償却を行っております。

(5) 金額の表示単位未満は切り捨てて表示しております。

2. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 4,130百万円

(2) 偶発債務

当事業年度末日現在の保証債務の内容及び金額は次のとおりであります。

一般顧客に対する保証 11,021百万円

ローン利用者に対する保証 0百万円

(注) 1. 一般顧客に対する保証は、主にマンション、戸建等の売却者及び購入者の建物の瑕疵に対するものであります。

2. ローン利用者に対する保証は、住宅ローン利用者の金融機関からの借入金に対するものであります。

(3) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

① 短期金銭債権 337百万円

② 長期金銭債権 314百万円

③ 短期金銭債務 401百万円

3. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高

① 営業収益 1,872百万円

② 営業費用 1,879百万円

③ 営業取引以外の取引高 74百万円

(2) 通常の販売目的で保有するたな卸資産高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が営業原価に含まれております。 15百万円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株 式 の 種 類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普 通 株 式	57,200千株	一千株	一千株	57,200千株

(2) 自己株式の数に関する事項

株 式 の 種 類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普 通 株 式	60,465株	一株	一株	60,465株

5. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)	
譲渡損益調整損	6,845百万円
退職給付引当金	1,733百万円
前受仲介手数料	1,402百万円
賞与引当金	820百万円
受託販売原価	209百万円
未払費用	177百万円
その他	463百万円
繰延税金資産小計	11,653百万円
評価性引当額	△6,879百万円
繰延税金資産合計	4,774百万円
(繰延税金負債)	
譲渡損益調整益	△670百万円
その他有価証券評価差額金	△154百万円
繰延税金負債合計	△824百万円
繰延税金資産の純額	3,949百万円

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当社は、主に住宅の仲介事業及び受託販売事業を行っており、営業活動によるキャッシュ・フローの季節的変動が大きいため、資金計画に照らして、必要な資金を調達しております。一時的な余裕資金は、資金運用規程に基づき安全性の高い金融資産で運用しております。

営業債権である営業未収入金は、ほとんど1年以内の回収予定であります。投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である営業未払金及び預り金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注）2. をご参照ください。）。

（単位：百万円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
① 現金及び預金	50,097	50,097	—
② 営業未収入金	582		
貸倒引当金（※）	△1		
	581	581	—
③ 短期貸付金	92,500	92,500	—
④ 投資有価証券			
その他有価証券	2,828	2,828	—
資産計	146,008	146,008	—
① 営業未払金	127	127	—
② 預り金	39,740	39,740	—
負債計	39,868	39,868	—

（※）営業未収入金に対応する貸倒引当金を控除しております。

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

① 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

② 営業未収入金

基本的には短期間にて決済されますが、回収事故に対処して、原則貸倒実績率により貸倒引当金として回収不能見込額を計上しているため、時価は帳簿価額から貸倒引当金を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

③ 短期貸付金

契約期間は短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

④ 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

負債

① 営業未払金、② 預り金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 非上場株式（貸借対照表計上額170百万円）、子会社株式（貸借対照表計上額17,769百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「③ 投資有価証券」には含めておりません。

7. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

種 類	会社等の名称	資本金又は 出 資 金 (百万円)	事業の内容	議 決 権 等 の 所 有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 と の 関 係	取引の内容	取 引 金 額 (百万円)	科 目	期 末 残 高 (百万円)
親会社	住友不動産㈱	122,805	総合不動産 業	(被所有) 直接 100.0 間接 —	同 社 が 開 発・分譲す る住宅等の 受託販売業 務を行って おります。 役員の兼任 役員の転籍	住宅等の受託 販 売 等	1,803	営業未収入金	194
								流動資産 「その他」	2
								営業未払金	10
								前 受 金	18
								預 り 金	230
						事務所移転 補償金の受取	65	—	—

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

住宅等の受託販売等の取引条件については、同社との間で交渉の上締結した「販売業務委託協定書」の定めによるほか、市場価格等に基づいて決定しております。

2. 事務所移転補償金の条件については、双方協議のうえ締結した賃貸借契約書に基づき決定しております。

3. 取引金額は消費税等抜きの金額で、期末残高は消費税等込みの金額で記載しております。

(2) 兄弟会社等

種 類	会社等の名称	資本金又は 出 資 金 (百万円)	事業の内容	議 決 権 等 の 所 有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 と の 関 係	取引の内容	取 引 金 額 (百万円)	科 目	期 末 残 高 (百万円)
親会社の子会社	住友不動産 ファイナンス㈱	100	ファイナンス 事業	—	—	資金の貸付	1,000	短期貸付金	92,500
						利息の受取	230		

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

住友不動産ファイナンス㈱に対する資金の貸付については、市場金利等を勘案して合理的に決定しております。

2. 取引金額は消費税等抜きの金額で、期末残高は消費税等込みの金額で記載しております。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 2,090円34銭

(2) 1株当たり当期純利益 139円67銭